

## 直球 緩球

「変革の時代のかじ取りは、商社を取り巻くビジネスモデルが変わる中で、部門間連携や全社目線のビジネスがますます重要になっている。既に自動車やIoT(モノのインターネット)、AI(人工知能)、エネルギーなどのワーキンググループがあるが、もう少し柔軟に対応できるように組織も変更する」

——情報技術でどのようにビジネスを変えるのか

### 住友商事 中村邦晴社長



(春名中撮影)

## 永遠に成長する企業に

「データを集められるプラットフォームホームを活用したい。ケーブルテレビのジュピターテレコムは約530万戸のネットワーク

を通じて電力も販売するが、これに載せる新サービスを探したい。新技術やサービスはインサイダーにならないと情報を入手できない。シリコンバレーは現地の裁量で数億円規模の新技術に投資できるようにした。欧州も同様の形とし、イスラエルでも投資案件を探りたい」

——ミャンマーに続く新市場開拓は

「ミャンマーでは工業団地や

鉄道、通信インフラを手掛けてきた。今後期待するのは、豊富な若い労働力や市場が膨らむバングラデシュだ。昨年、同国政府から高効率石炭火力と港湾の一体開発を受注した。これを機に通信インフラなどにも広げたい」

——次の世代に何を期待するか

「50年、100年さらに永遠に成長し続ける企業であってほしい。成長投資で資産を積み上げると同時に、株主への配当などバランスを重視したい」